

第14回東近江圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会報告

日時：令和4年6月6日（月） 13:30～15:30

場所：Web開催（滋賀県危機管理センター災害対策室1）

本協議会は、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するものへと意識を変革し、社会全体で洪水氾濫に備える「水防災意識社会」を再構築するため、多様な関係者が連携して、東近江圏域（近江八幡市・東近江市・日野町・竜王町）における洪水氾濫ならびに土砂災害による被害の軽減に資する取組を、総合的かつ一体的に推進するための協議を行う場として設置しています。

1.開会

■会長代理の滋賀県 流域政策局 伊吹局長の挨拶

滋賀県ではどのような洪水にあっても人命が失われることを避け、生活再建が困難となる被害を避けることを目的として、川の中の対策に加え、川の外での対策を総合的に実施していく流域治水の取組を進めてきました。国土交通省においても、気候変動による水災害の頻発化・激甚化を踏まえ、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策を活用した事前防災対策の推進や水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの



取組など、ハード・ソフト一体の水災害対策、流域治水の本格的な実践に向けた取組を進めておられるところです。東近江圏域においても取組方針を定め、これまで取組を進めてきたところですが、5年の期間が経過したことから、方針の改定について御議論いただければと存じます。また、避難情報発令に係るアンケート結果についても意見交換をさせていただきたいと考えています。

本日は市・町・国・県の行政組織に加え、学識者の先生方にも御出席いただいております。水害・土砂災害の防止について皆さまと一緒に考え、今後の取組につなげてまいりたいと思います。ぜひ活発な議論をお願いいたします。

2.議事

(1)協議会規約の改正について

協議会規約（案）について事務局より説明があり、案のとおり承認されました。

(2)2021 年度の取組報告について

取組方針に基づき 2021 年度に実施された取組について、各機関より報告がありました。

質疑応答・意見交換

- どの市町でも小中学生をターゲットにした取組が実施されている。良い取組であり、他の圏域にも紹介していければよい。(堀教授)
- 土砂災害リスクの現地表示として、どこにどのような看板ができるのか。(多々納教授)
- ⇒ 土砂災害警戒区域を示した地図や、避難場所の案内、避難情報が記載されているホームページに案内する QR コードを看板に載せて、公民館や学校の校庭などに設置しようと考えている。(砂防課)
- 日野川ダム下流における浸水想定区域図がどのように市町のハザードマップに反映されているのか。また、どこかの浸水が深いか分かりにくい。ホームページで浸水想定区域図を表示する場合には、3m 以上または 5m 以上の浸水箇所が分かるように、色を濃くするなどの工夫ができないか。(多々納教授)
- ⇒ 日野町には浸水想定区域について情報提供を行っているが、ハザードマップには反映されていない状況である。ホームページでの公表にあたっては、今後見やすい表示の方法について工夫したい。(水源地域対策室)
- 重要水防箇所の見直し及び水防資機材の確認について、カルテを作成されていると報告があったが、役場や水防団が災害が起きそうなときに速やかに確認できるように情報共有されているか。(多々納教授)
- ⇒ 土木事務所と市町の防災担当または建設担当間で情報共有している。(東近江土木事務所)
- 鬼怒川の災害でも指摘されているが、多くある重要水防箇所のうち、特に心配な箇所は事前に把握できていたが、災害時に力を割くことが十分できなかったようである。このようなことが無いように、特に気を付けるべき箇所について情報共有できれば良いと思う。(多々納教授)

(3)取組方針の改定について

東近江圏域の取組方針改定案について、事務局より説明があり、案のとおり承認されました。

質疑応答・意見交換

- 東近江圏域の取組方針改定案の6頁と15頁に、それぞれ愛知川および三明川流域が個別表記されているのはなぜか。例えば日野川は該当しないのか。(竜王町長)
- ⇒ 愛知川については、東近江圏域と湖東圏域の境を流れており、防災情報について愛知川沿川防災情報WGを設置し、圏域の枠を超えた関係市町で毎年共有を図っているもので、今回の方針改定に併せて記載している。また、三明川は近江八幡市の市街地を流れる都市河川であり、流域における浸水が昨年夏にも発生している。河川管理者が流下能力維持のための工事を実施し、近江八幡市が内水対策を実施または計画されており、浸水対策について総合的に情報共有して進めていく必要があることから記載している。(流域治水政策室)
- ⇒ 他の河川についても県としてしっかり取組を進めていく。(会長代理)

(4)情報提供

①令和3年度愛知川沿川防災情報WGの実施報告について

令和3年度の愛知川沿川防災情報WGの実施報告について、事務局より報告がありました。

②「令和3年8月の大雨」後の避難情報発令等に関する取組について

令和3年8月の大雨時の市町の対応状況および避難情報発令等に関するアンケート結果について、事務局より報告がありました。

質疑応答・意見交換

- 災害対策基本法の改正により、避難勧告が廃止となったが、避難情報を出すタイミング等の課題について意見交換ができればと思う。(堀教授)
- 避難勧告というグレーゾーンを出せないデメリットを感じているが、やはり空振りでも避難情報を発令することが改めて大事だと考えている。その時に重要なのがエビデンスであると考えている。単なる雨量だけでなく、地中の累積雨量について情報提供頂いており、ある意味自信をもって、この数値を超えたので発令したという数値的なエビデンスになる。(日野町長)
- 昨年8月の大雨の時に、知事からテレビ放送での情報発信が無かったと思う。県民は、NHK 大津放送局やびわこ放送のニュースをよく見ている。地元放送局での知事からの発信の後に、町からの避難情報の発令と続くことで、住民の方々の避難につながりやすくなる。知事からの情報発信は大事であることから、今後情報発信をお願いしたい。(日野町長)
- ⇒ いただいたご意見について、担当部局に伝えさせていただく。(会長代理)
- 避難勧告が無くなって、高齢者等避難から避難指示に移ることにより、危険度の格差

が大きすぎることから、首長が発令に対して躊躇する部分もある。避難指示は危険が差し迫っている、緊急安全確保というイメージがあることから、もう 1 段階前の、避難勧告というステージを今後見直していただきたいという思いを市長も持っている。(東近江市長代理)

- 昨年 8 月の大雨時は、日野川安吉橋の水位、また祖父川鶴川橋の水位を逐一判断するとともに、それぞれの支川の水位や、1 時間 2 時間後の日野川の水位がどうなっていくかも踏まえて高齢者等避難を発令した。土砂災害については、雨が止んでいたが、予報を見据えて高齢者等避難を発令した。市町によって基準が違うかもしれないが、一定の方向性があれば、本部の中で避難情報の発令について議論しやすい。今後こうした情報交換の中で議論を重ねていければと考えている。(竜王町担当者)
- 気象情報に関して、空振り率が高いことから、今後改善が必要である。また、リアリスティックに避難情報が発令できるように、関係機関で今後も意見交換をして改善できないか。(多々納教授)
- 昨年の 8 月の大雨時には、避難情報の発令の基準がない状況で、発令に戸惑いがあった。昨年の課題を踏まえて、今年度に一定の基準を定めるように作業を進めている。アドバイスや情報提供をいただければありがたい。(近江八幡市長代理)
- 高齢者等避難は比較的早い段階で発令されるが、その後徐々に住民が危険認識を高めて行くような行政からの働きかけがない中で、場合によっては突然避難指示が発令されることとなる。こうした点を考えると、昨年度の制度改正は、住民自らで判断することをより求めるようになっていとも考えられる。(堀教授)
- 日野町長が発言されたようにエビデンスが重要である。こういう状態になったことから避難情報が発令されたという情報を住民の方と共有することで、発令する側が何を考えて、情報を発令しているかが分かってくる。住民自らの危機意識を高めていけるようなツールが共有されていくことが重要である。(堀教授)

③流域治水対策等の主な支援事業について

流域治水対策等の主な支援事業について、琵琶湖河川事務所より説明がありました。

④防災気象情報の改善について

令和 4 年出水期における防災気象情報および線状降水帯の予報について、彦根地方気象台より説明がありました。

以上